

【20】書籍献納願

写1冊

〔書名よみ〕しよじゃくけんのうねがい 〔編著者〕義観

〔写刊年次〕明治二十四年（一八九二）

〔内題〕（ア）書籍献納願

（イ）書籍献納之儀二付御届

〔残欠状況〕全 〔保存状況〕中破 〔装訂〕袋綴（紙縫） 〔丁数〕

七丁（三丁十四丁） 〔本文用字〕漢字・片仮名 〔二面行数〕一三

行（罫紙） 〔匡郭〕有、縦二〇・一糎×横糎 〔界線〕界高二〇・一

糎、上欄高 五・三糎、下欄高 一・九糎 〔表紙〕ナシ 〔法量〕縦

二七・八×横二〇・〇糎 〔料紙〕楮紙 〔書入〕訂正（墨） 〔印記〕

〔海浦〕（朱・単郭・陽刻・円） 〔備考〕三丁は紙縫で綴り、四丁は別。

〔奥書〕

明治廿四年五月十六日 真言宗円覚寺住職

海浦義観

〔解題〕

明治二十四年（一八九二）五月一六日に、海浦義観が帝国大学（東京大学）に対して、修験道に関する書目を寄贈するため、その許可をもらうために出した書状の下書きである。

円覚寺第二十六世海浦義観（安政二年（一八五五）〜大正十年（一九二二））は、明治政府の神仏分離令、および修験道の廃止による修験道の衰微を嘆き、修験道章疏の散逸・喪失を悲しみつつも、何とかそれを食い止めようと努力していた。そのために義観は醍醐寺に行き、修

験道の經典類を書写するが、醍醐寺で修験関係書ばかりを選んで書写することを、「狂人」と揶揄されたという。そうした折、明治二十一年に、帝国大学総長から各宗の管長宛に、東洋哲学研究史料として仏教章疏を寄贈してもらいたいとの依頼があった。それを知った義観は、修験道章疏を帝国大学に納めたいと醍醐寺に願い出たが、許可されないままに数ヶ月が経つ。そこで義観は個人での寄贈を思い立ち、個人で修験の叢書を完成させ、『修験宗叢書』（五十巻）と命名した。

本書は、こうしてできた『修験宗叢書』五十巻の写本を帝国大学に寄贈するため、帝国大学（現在の東京大学）総長加藤弘之宛に、明治二十四年（一八九二）に出した手紙の下書きである。内容としては、「修験宗教義二関スル書籍及自著書」を「一己人（二個人）」として図書館へ寄贈したい旨、五〇冊の目録を添えて、その許可を願い出たものである。総長宛と別に、「帝国大学書記官和田垣謙三宛」に記された「書籍献納之儀二付御届」もあり、両者に許可願を送ったものと思われる。この願書に別途添えた、献納する書籍の目録には『修験秘奥鈔』二冊以下、「合計五十冊」が確認できる。この請願はすぐに許可され、義観は自ら『修験道章疏』と名付けた写本五十冊を、帝国大学図書館に寄贈した。それに対して、大学総長文学博士加藤弘之は、『帝国大学図書館和漢書目録』一冊を、答贈したという。

この間の事情は、後に海浦義観本人が、機関誌『神変』第一二四号（大正八年八月一日刊行）に詳しく記している。円覚寺には、この他、『日本大藏経』『修験道章疏』を編纂した中野達慧とやりとりした書簡など、『修験道章疏』編纂に関する資料も多数遺されている。

義観の寄贈した修験道関係書は、後に、修験道研究の基本資料である『修験道章疏』一〜三（『日本大藏経』日本大藏経編纂会、大正五年）の編纂に活用された。その後、義観の寄贈した『修験道叢書』は、関東大震災の折に焼失した。

『修験道章疏』は全三巻。修験道典籍一六四点を納めた、修験道の最

も基本的な資料集である。第一巻は当山派の教義法則をまとめたもので、その底本の多くは、海浦義観の提供したものである。中野達慧が大正一〇年一月二七日に記した『日本大藏経解題』下巻所収、「修験道章疏解題」の最後には、「修験道に関する章疏の重要な大部分を茲に集め得たのは、海浦義観師の明治初年以來の絶へざる努力を第一とし」と、海浦義観の功績を称えている。

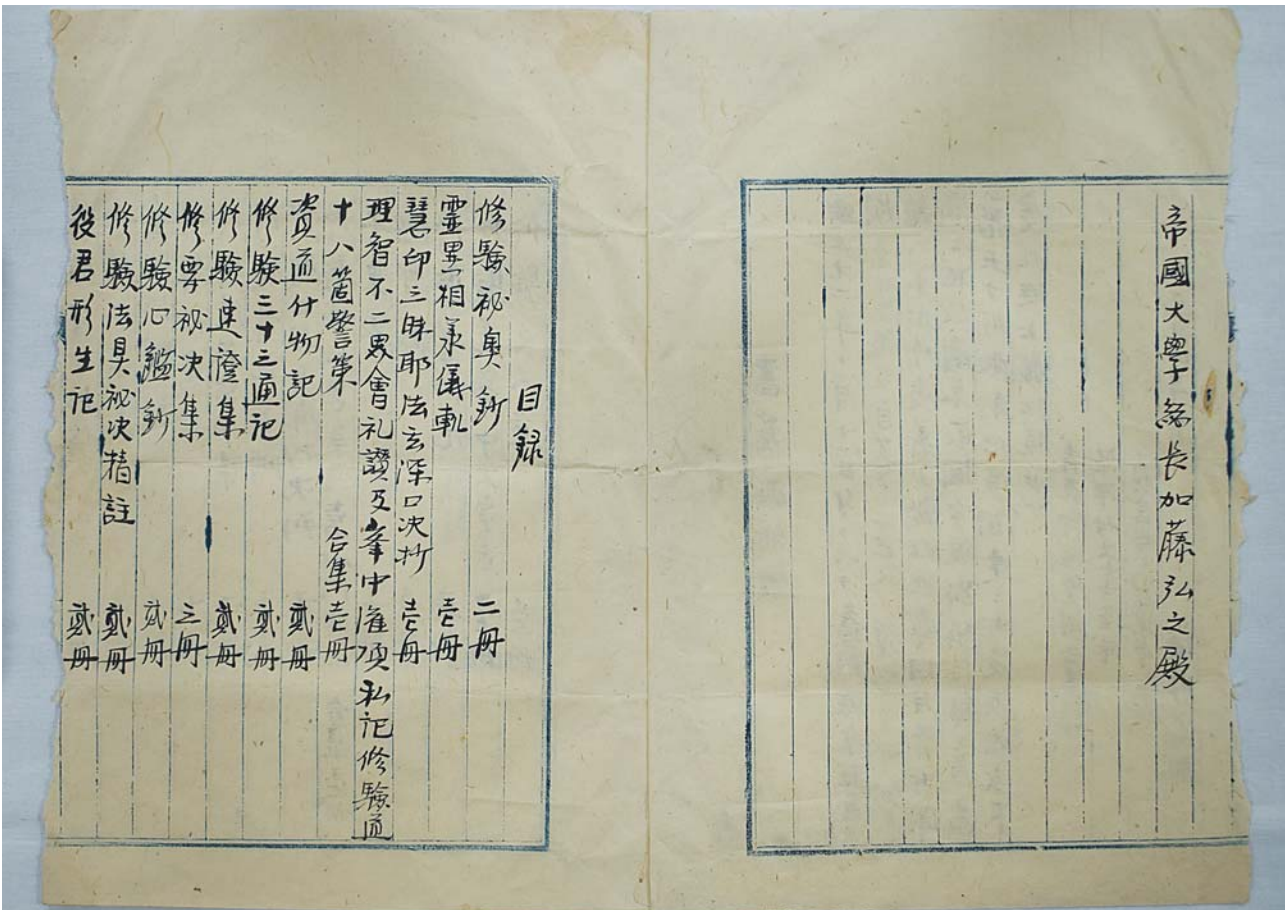
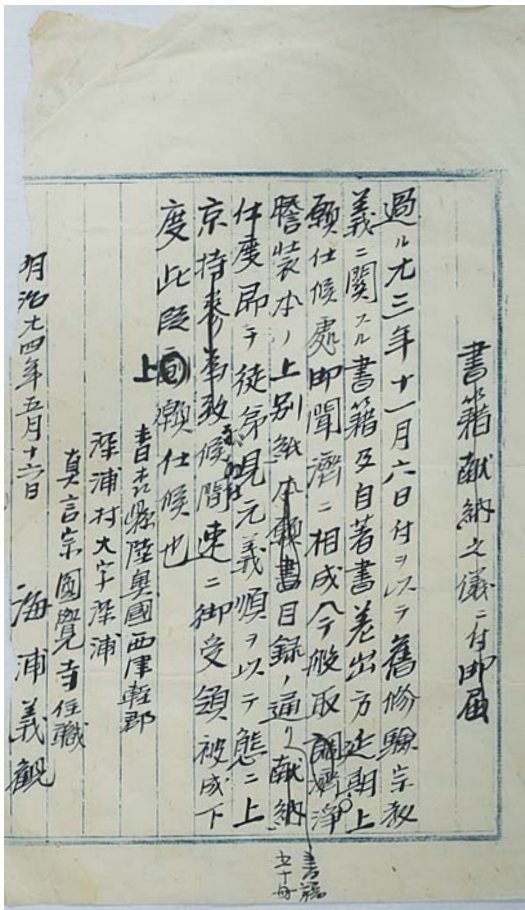
〔注〕

(1) 「義観回想」(海浦由羽子『験乗末資海浦義観』六八頁)に、『神変』に寄せた義観自身による回想が載る。

〔参考〕

- ・海浦由羽子『験乗末資海浦義観』(深浦町教育委員会、二〇〇三年)
- ・宮家準『修験道章疏解題』(国書刊行会、二〇〇〇年)

(渡辺 麻里子)



修驗孝中秘傳 貳冊
 山伏二字義 壹冊
 全剛法螺記 壹冊
 修練秘要義 七冊
 修驗直無常用集 二冊
 修驗傳記畧解 壹冊
 修驗日用見聞抄次刊 壹冊
 修驗依の巻集及高山門序記 合集壹冊
 本草衣 二冊
 踏雲録 壹冊
 修驗孝行記 貳冊
 修驗通孝中大堂書 壹冊
 修驗之大意 壹冊

修驗安心氣新 貳冊
 修驗二字義 壹冊
 大般若教智品愚註 貳冊
 身親集 二冊
 合計五十冊

書籍献納願

過ル九二年十一月十一日付ヲ以テ舊修驗宗教義ニ
 関スル書籍及自著書一己人ノ資格ニテ御圖書
 籍ハ差出申度義上願仕候處同月九日御聞
 濟ニ相成爾來取調云般別紙目錄之通リ書
 籍五十冊献納仕候間速ニ御受領被成下
 度此段上願仕候也

青森縣陸奥國西津輕郡
 落浦村大字落浦
 真言宗圓覺寺住職
 明治九四年七月十六日
 海浦義觀

書籍献納願

過ル九二年十一月十一日付ヲ以テ舊修驗宗教義
 ニ關スル書籍及自著書一己人ノ資格ニテ御
 圖書籍ハ差出申度義上願仕候處同月九
 日御聞濟ニ相成爾來取調云般別紙目
 録之通リ書籍五十冊献納仕候間速ニ御
 受領被成下度此段上願仕候也

青森縣陸奥國西津輕郡
 落浦村大字落浦
 真言宗圓覺寺住職
 明治九四年五月十二日
 海浦義觀

書籍献納之儀ニ付御届

寛元三年十一月六日付ヲ以テ舊修驗宗叔
義二関テ書籍互自著書差出方迄期上
願仕候處申聞濟ニ相成今般取御願
啓装本ノ上別紙本取書目錄一通ニ献納
仕度昂テ徒勞見元義順ヲ以テ態ニ上
京持参奉教候間使ニ御受領被成下
度此段上

吉原縣陸奥國西津輕郡

津浦村大字津浦

真言宗圓覺寺住職

月池七年五月十日 海浦義観

帝國大學子書記官和田垣謙三殿

書籍
五冊

書籍献納之儀ニ付御届

寛元三年十一月六日付ヲ以テ舊修驗宗叔
義二関テ書籍互自著書差出方迄期上
願仕候處申聞濟ニ相成今般取御願
啓装本ノ上別紙本取書目錄一通ニ献納
仕度昂テ徒勞見元義順ヲ以テ態ニ上
京持参奉教候間使ニ御受領被成下
度此段上

吉原縣陸奥國西津輕郡

津浦村大字津浦

真言宗圓覺寺住職

月池七年五月十日 海浦義観

帝國大學子書記官和田垣謙三殿